

旧篠崎家住宅主屋の保存と活用

● 建物を守るために

土日祝日の午後は、囲炉裏に火を入れてお客様をお迎えしています。薪を焚く煙は屋根の茅の防虫や、木材の防腐に効果があるとされています。また、1年に一度、薬剤を用いて建物全体の燻蒸を行っています。

さらに新年を迎える前に、建物点検も兼ねて博物館職員、囲炉裏の火入れを担当するスタッフ、区の文化財保護ボランティアとの協働で「すす払い」を行います。翌日には障子の貼り替えもします。

それでも日々風雨や日光に晒され、また毎日の開閉や使用などにより経年劣化が生じます。虫害により柱や土壁に穴が開いてしまうこともあります。そうした場合はその時にいちばん良いと考えられる材料や方法で修繕を行い、記録に残しています。近年では、内側が剥落したカマドや、ドロバチの被害により穴の開いた土壁の補修、また雨戸の敷居の取り替えなどを行いました。



火の入った囲炉裏



薬剤を使った燻蒸の様子



土壁の補修



雨戸の敷居の取替工事



カマドの補修



すす払いの様子

● 建物の活用

杉並区の農家で行われていた年中行事の紹介をしています。今ではまったく行われなくなった行事もあり、地域の歴史を紹介する場ともなっています。七夕馬や小正月のまゆだんごは親子で作る教室を開催し、子どもたちが区の歴史や文化を体験を通して学んでいます。

また、古民家という場を生かしたイベントとして、大宮前郷土芸能保存会による「大宮前の獅子舞・大黒舞」の実演を行っています。保存会の方々が古民家が舞台のようで、ここで演じられるのが嬉しいと毎年楽しみにされています。

古民家は社会科見学で当館を訪れる区内の小学生の学びの場でもあります。その際、古民家の解説に加え、囲炉裏の火入れの実演を見たり、石臼を実際に回すなどの体験を行っています。

古民家の活用を通して多くの方に古民家を体験・体感し、知っていただくこともまた、古民家を守るための活動でもあります。



七夕馬づくり



小正月のまゆだんご作り



大宮前の獅子舞・大黒舞



小学校3年生の体験学習